

参考資料 1

第 2 期岡山県障害者計画策定に係るアンケート調査結果（抜粋）

第 2 期岡山県障害者計画の策定に当たり、平成 22 年 3 月に障害のある人 2,800 人（回答者 1,052 人）を対象に障害のある人のための施策等に関するアンケート調査を実施しました。

調査結果のうち、「災害時の対応」及び「退院の意向等」の状況は次のとおりでした。

1 災害時の対応

○身体障害のある人

- ・ 火事・地震・台風などの災害が発生したときに、「一人で避難できる」36.9%、「一人では避難できない」44.4%となっている。
- ・ 災害の発生に備えて、非常持ち出し品を「準備している」13.3%、「準備していない」72.9%となっている。
- ・ 災害が発生した際の不安は、「障害者に配慮した避難場所がない」が22.1%、「災害情報・避難情報の入手が困難である」17.7%、「緊急時であるかどうかの判断がつかない」16.7%、「避難を介助してくれる人がいない」12.7%、「介助者・生活に必要なサポートが確保できない」11.6%などの順となっている。

○知的障害のある人

- ・ 火事・地震・台風などの災害が発生したときに「一人で避難できる」が19.8%、「一人では避難できない」が61.9%となっている。
- ・ 災害の発生に備えて、非常持ち出し品を「準備している」が4.4%、「準備していない」が76.4%となっている。
- ・ 災害が発生した際の不安は、「緊急時であるかどうかの判断がつかない」46.9%、「避難場所がわからない」23.3%、「災害情報・避難情報の入手が困難である」19.8%、「障害者に配慮した避難場所がない」17.0%、「介助者・生活に必要なサポートが確保できない」11.9%などの順となっている。

※精神保健福祉に関する調査の在宅者調査及び入院患者調査においては、調査項目として設定していませんでした。

2 退院の意向等

○精神保健福祉に関する調査（入院患者調査）

(1) 退院の意向

- ・退院の意向については、「すぐに退院したい」20.3%、「条件が整えば退院したい」60.1%と退院したい意向が8割を超えている。また、「退院はしたくない」が10.1%となっている。
- ・退院するために必要なことは、「主治医の許可」43.0%、「体力」34.8%、「家族の理解・受入体制」33.5%、「困ったときの相談先の確保」31.0%、「生活費の確保」29.1%、「住まいの確保」28.5%、「家事など日常生活の支援の確保」25.9%などの順となっている。

(2) 退院後の暮らし

- ・退院後に将来住みたい住宅は、「持ち家」が46.2%と最も多く、以下「民間の賃貸住宅・借家」19.0%、「グループホーム・ケアホーム」11.4%、「福祉ホーム」7.0%などの順となっている。
- ・退院後の暮らし方は、退院後は「1人でくらしたい」28.5%、「夫婦2人や自分の子どもとくらしたい」24.4%「親や兄弟姉妹とくらしたい」が24.4%などの順となっている。
- ・退院後に独立して生活するとすれば必要な住宅は、「持ち家」が45.7%と最も多く、以下「民間の賃貸住宅・借家」11.4%、「グループホーム・ケアホーム」8.6%などの順となっている。

(3) 退院後に地域で生活する上で必要なこと

- ・地域で生活していく上で、必要だと思うものについて、「ぜひほしい」の割合が高いものは、「いつでも診察してくれるかかりつけの病院・診療所」「具合が悪くなったらいつでも相談できる電話相談」「話し相手や相談ができる仲間（セルフヘルプグループ）」「相談にのってくれる市町村の精神保健福祉専門の職員」「入院せずに休息ができる施設（ショートステイ）」「日頃のくらしの相談や支援、友達との交流ができる施設等」「保健・医療等に対する苦情を代弁してくれるサービス」などの順となっている。

(4) 退院後に昼間過ごしたい場所

- ・退院後に昼間を主に過ごしたい場所は、「自宅」28.5%、「通所施設（小規模作業所を含む）」20.9%、「会社」17.1%、「病院・診療所に通院またはデイケア」12.7%などの順となっている。